



1. 約 840 人の団員が参加し、防火・防災への意識を高めた / 2. 1,000 日無火災を達成した梁川支団第 5 分団が表彰された / 3. 陣屋通りを
整然と行進する / 4. ラッパ隊の演奏が式に花を添える

「地域を守る心新たに」

1月5日、保原体育館で消防団出初式が行われました。開式に先立ち、団員とポンプ車が分列行進を行い、統制のとれた動きを披露しました。式では、佐藤良一団長が「台風19号で1人の犠牲者も出さなかったことは、消防団員の努力の賜物。日頃から職務の重要性を深く認識し、心身の鍛錬と技術の研鑽を重ねてほしい」と訓示し、団員たちは地域の安心と安全を守る気持ちを新たにしました。

市長コラム



第18回 成人式に臨んで思うこと

令和2年伊達市成人式が、去る1月12日に盛大に開催されました。伊達市では613人が新たに成人を迎えました。輝く瞳と大人としての責任を自覚した顔がとても印象的でした。晴れて成人となられた皆さん、本当におめでとうございます。

現在我が国は、経済のグローバル化、急速な少子高齢化、地球規模での環境問題など、かつて経験したことのない社会変革の中にあり、将来を見通すことが極めて難しい時代となっています。そのような時代だからこそ、自由な発想と行動力を秘めた若い皆さんの意見がとても重要であり、その意見が反映できる社会を創り上げていかなければならないと思っています。

さて、晴れて成人となられた皆さんに伝えたいことが二つあります。

一つ目は“今を大切に生きる”ということです。「昨日のことは忘れる、明日のことは考えるな、今日に全力を尽くせ」という言葉があります。反省することはとても大切なことですが、昨日のことをいつまでも悔やんだり、まだ来ぬ明日のことに思い悩んでいるよりも、今日を全力で生きてほしいと思います。「未来は今日の積み重ね」という言葉もあるのですから……。

二つ目は“現場主義”です。日本人初の国連難民高等弁務官を務められた緒方貞子さんは、世界各地の紛争地に足を運び徹底して現場主義を貫かれた人です。現場で多くの人と会い「見て、聞いて、肌で感じる」、変化の激しい現代社会で生きるために最も重要なことだと思っています。現在は、情報通信機器の発達でメール等での“会話？”が多くなっていますが、やはり「フェイス・トゥー・フェイス」（顔と顔を合わせて）、多様な意見や考え方を幅広く吸収してほしいと思います。

かく言う私も、どこまで実践できているかは心もとないのですが、人生の先輩として、成人となられた皆さんに少しだけアドバイスをさせていただきました。

須田博行

手話でコミュニケーション vol.21

今月の手話
「注意する」



丸めた両手を上下に置き、握りながら胸に引き寄せます。

👉 気を引き締めるようなイメージで両手を握り、胸の前に引き寄せましょう。